

# 勝高同窓会報

2016.10  
Vol.26





## 勝山高等学校長 笹岡俊男

同窓会の会員の皆様には、各界・各分野でご活躍のこととお慶び申し上げます。

一方、部活動面では、先の県春季高校総体において、バドミントン団体で、男女アベック優勝を獲得し、インターハイに、男子12年連続、女子6年連続出場を果たしております。また、バドミントン男女個人、柔道女子個人でもインターハイ出場、北信越大会にはバドミントン男女団体（各3位）、陸上、水泳、柔道部が出場するなど好成績をあげています。

他にも、吟詠剣詩舞部が全国高校総合文化祭に、吹奏楽部が二年連続北陸吹奏楽コンクールに出場しております。また、日本文化部が、全国高校生太鼓甲子園において、舞いながら打つ勝山左義長太鼓の柔らかさを表現した創作太鼓「真夏の左義長」で県勢初の頂点、最優秀賞に輝きました。金沢大学附属高校、金沢二水高校、藤島高校と論戦を繰り広げた高校生模擬裁判選手権中部・北陸大会で二年生チームが見事二連覇を達成いたしました。

さて、平成28年度、新たに139名の新入生を迎え、生徒数402名でスタートいたしました。勝山市唯一の高校となつて4年目となりますが、残念ながら本年度も定員を充足できない状態にあります。生徒数減少が学校行事や部活動、ひいては教育活動の活力低下につながらないよう、また生徒のさらなる学力向上と多様化する進路希望実現に向け、全校生徒、全教職員が一致団結して乗り切ります。

今後とも、益々地域に信頼され期待が集まる学校になるよう努めてまいります。

同窓会の会員の方には今後とも母校の教育活動にご支援・ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

きました。

## ま一筋に生きる!!

### 卒業生紹介



春本小助  
(本名 中道優さん)  
平成22年卒

太神楽師、春本小助さんは、中学時代の頃に、芸術鑑賞で歌舞伎を紹介するビデオを見て、その魅力にとりつかれたと言います。

ところが、勝高時代に国立劇場養成事業でのオーブンキャンパスの際に、太神楽の稽古風景がとても楽しく感じられ、ぞっこんで惚れ込んだのが、太神楽に携わるきっかけとなりました。

勝高を卒業して、国立劇場で3年間前座修行に勤しみました。

一つの芸を身につけるまで繰り返し練習を重ね、ただひたすら我慢の日々の連續でした。3年間の修行を終える頃には、一緒に入った5人のうち、残ったのは春本さんただ一人でした。一つの芸を身につけるのに約3年程度の年月を要し、根気がなければ続けれません。

同窓生の皆さん、みんなで春本さんを応援しましょう。



4月にはプロの仲間入りを果たし、ようやく寄席の合間に登場して晴れの舞台に立つことが出来るようになります。

そんな春本さんの芸を、お母さんが出演すると、失敗しないか、観客の反応はどうかと心配だったと言います。でも、芸がうまくいったときにはホッとした安心感に包まれ、息子さんの成長に心を彈ませました。

春本さんとお母さんのメッセージでは、「声を揃えて、「忘年会でも新年会でも、どんな席でも声を掛けしてください。一生懸命がんばります。」とのこと。

# 第12回「東京勝高会」総会・懇親会

日 時▶平成28年6月19日(日) 12:00 ~ 14:30

場 所▶ホテル「グランドヒル市ヶ谷」

出席者▶第1回卒(昭和24年卒)から第62回卒(平成22年卒) 96名

来賓等▶勝山市市長 山岸正裕様 他1名

勝山高等学校教頭 山田栄司様

勝山高等学校同窓会長 阿部光郎様 他3名

福井県東京事務所 北川郁雄様



東京勝高会  
会長 金子由成

第7回卒の皆さんを中心となり再開し、それから隔年で実施しています。

第12回「東京勝高会」総会・懇親会は、平成28年6月19日(日)12時から、ホテル「グランドヒル市ヶ谷」で開催いたしました。

懇親会は、石塚運昇氏(第22回卒)の司会で進められ、東京勝高会会長金子由成(第9回卒)の挨拶にはじまり、来賓としてご出席の勝山市長山岸様から勝山市の現況等を含めた本会への心温まる祝辞を、つづいて勝高教頭先生の山田様から学校の現況のご説明をいただきました。

乾杯は勝高同窓会長阿部様の音頭で、会の発展と再会を祝し、勝山の銘酒「一本義」(寄贈受)で杯を挙げました。

会は久し振りに再会した同級生、先輩、後輩がお互

は、昭和46年に第1回が開催され、途中一時中断もありました。が、平成17年に

東京勝高会の健康を寿ぎついで、故郷勝山の思い出や高校時代の青春の思い出に花が咲き、終始和やかに楽しく進む中、福井県東京事務所北川様からご挨拶をいただき、その後、大神樂師春本小助さんに芸を披露していただき、つづいて、地元勝山の名産品「おやき」、「ぐるみ羊羹」等の抽選会が始まり場が盛り上がり上がったところ、勝山高等学校校歌と、ふるさと(唱歌)を全員で合唱し、瞬く間に2時間半の時間が経ち、最後に副会長岸下氏(第11回卒)の閉会の挨拶で次回の再開を約し、会は終了しました。

東京勝高会もなかなか参加者の若返りがはかれず苦労してきましたが、今回ようやく若い幹事の皆様の努力によりまして、70歳未満の方が50%を超えました。更に検討を重ね、多くの方が参加していただけよう考えたいと思います。

最後になりましたが、今回の開催にあたりまして、同窓会本部の皆様にご協力をいただき有難うございました。

今後とも、何卒宜しくご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。





加藤 浩樹さん  
平成13年卒



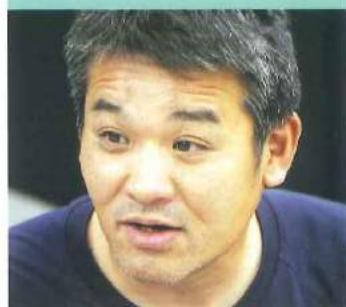
山岸 登美子さん  
昭和55年卒



松浦 太一さん  
平成23年卒



春木 裕之さん  
平成4年卒



義岡 丈太郎さん  
平成26年卒



笠松 混さん  
平成21年卒



小山 打順はどうでしたか？  
義岡 監督が1番で起用してくれました。でも、あまり出塁できなかつたので、今でも申し訳なかつたなとう思いがあります。

加藤 ピッチャーで4番を打たせてもらつていました。  
松浦 主に7番、8番、9番の下位打ちでしたね。

永井 1番バッターでした。あの頃、県大会の1試合の盗塁数記録が6個だつたと思います。記録を塗り替えたいと思いつつも盗塁を狙つてたことを思い出します。結局、1試合4盗塁が最高で残念ながら記録更新はできませんでしたが。

春木 1年生では下位打線で、3年生では1番や3番が多くつたね。

笠松 思いつきり下位打線で、しかも守備がファーストでした。普通、強打者がファーストなのに(笑)。あと、キヤブテンも任せられました。

松浦 笠松さんは安定したプレーが持ち味の本当に頼れるキヤブテンでした。(笑)

山岸 勝山高校野球の後輩へ一言お願ひします。

義岡 強豪を倒して、3回戦まで進み、過去最高のベスト8以上を目指してほしいです。

加藤 福井県から甲子園大会に出場するのは大体私立高校が多いので、僕が生きている間に強豪に勝つて甲子

園大会出場を果たして、勝山高校野球部出身のプロ野球選手を観るのが夢ですね。

松浦 以前に比べると野球をする環境は良くなっていますが当たり前と思わず、感謝の気持ちを持って取り組めばその気持ちが良い試合結果に繋がると思いますよ。

永井 息子の試合を観て感じるのは、県立高校同士の力の差はあまり無いですが、メンタル面で諦めるのが少し早いのと、相手チームに向かう姿勢が弱い感じを受けます。自分をもつと前面に出していくほしい。ベスト8に進む力は十分に持っています。

春木 野球部が強豪私立に勝てば地元もすごく盛り上がるので、楽しみに待っています。野球は年を重ねてもできるスポーツで、町内ソフトボール大会など交流が図れるので永く続けて欲しいですね。

笠松 時間があれば県営球場などに駆けつけて勝高を応援していま

す。強豪を倒して勝高旋風を起こしてほしいです。

小山 ありがとうございました。



# 御挨拶

勝山高等学校同窓会

会長 阿部 光郎

(第二十二回 昭和四十五年卒)

同窓会会員の皆様には、益々ご健勝でご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より同窓会活動及び母校の発展に深いご理解とご支援を頂き厚く御礼申しあげます。

さて、八月十三日に開催されました平成二十八年度同窓会総会において、全ての議案が承認され、我々理事役員、新任も含め十五名は引き続き同窓会を運営させていただく事になりました。同窓会設立後六十八年、会員数一万九千名、この歴史と伝統ある同窓会を継続、発展させなければなりません。その第一目的は、会員相互の親睦を図る事です。この勝山の地においては、毎年八月のお盆の前後に、幹事学年による大同窓会を開催し、また、関東方面では東京勝高会が、関西方面では関西勝高会が定期的に総会・懇親会を開催し、多くの方々が交流を図っています。

次に情報の発信です。今年で二十六回目になる「勝高同窓会報」の発行により、今の勝山高校の現状、各地同窓会開催の報告、各方面で活躍されている方々の特集等を約一万一千世帯に発送しています。この会報を読み、少しでも「母校勝高」を思い出していただき、クラスの事、同期の事、そして同窓会の事へと関心を広げてもらいたいと考えています。

本年においても、母校の後輩達の部活動が大いに活躍をしています。特に七月に行われた和太鼓の高校生団体日本一を決める全国高校生太鼓甲子園において、勝高日本文化部が第一位最優秀賞に輝きました。

また、日弁連が主催する高校生模擬裁判選手権中部・北陸大会でも我校が優勝するなど、この後も引き続き、各部活動とも活躍してくれる事と思います。

このような部活動に対し、本年度も援助費用として二十万円を寄付させていただきました。この事業を通じ、勝山高校の更なる振興発展と同窓会発展の為に精一杯努力して参りますので、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。



**勝高同窓会報は  
「福井県立勝山高等学校 ウェブサイト」  
で閲覧できます。**

勝山高校

検索

<http://www.fki-katsuyama-h.ed.jp/>



## 平成27年度 決算報告

### ■収入の部

| 項目          | 平成27年度決算  |
|-------------|-----------|
| 前年度繰越金      | 2,090,707 |
| 入会費         | 690,000   |
| 同窓会会報協力金    | 763,000   |
| 大同窓会余剰金等    | 262       |
| 雑入（発送業務委託費） | 10,000    |
| 銀行受取利息      | 262       |
| 合計          | 3,554,231 |

### ■支出の部

| 項目           | 平成27年度決算  |
|--------------|-----------|
| 同窓会報         |           |
| 会報発送宛名ラベル    | 31,752    |
| 会報・協力金チラシ印刷  | 582,640   |
| 発送作業業務委託費    | 50,000    |
| 郵送料          | 661,740   |
| 同窓会会報誌座談会経費  | 15,587    |
| 小計           | 1,341,719 |
| 大同窓会実行委員会事務費 | 45,003    |
| 同窓会名簿更新作業    | 92,664    |
| 寄付金（勝高）      | 200,000   |
| 卒業証書筒        | 44,712    |
| 事務委託         | 120,000   |
| 事務局事務消耗品・通信費 | 10,482    |
| 払込手数料        | 26,330    |
| 雜費           | 184,510   |
| 合計           | 2,065,420 |

## 勝山高等学校同窓会役員

| 役職   | 氏名    | 卒業年度 | 役職     | 氏名    | 卒業年度 |
|------|-------|------|--------|-------|------|
| 会長   | 阿部 光郎 | S45  | 〃      | 三屋 久美 | H2   |
| 副会長  | 木下 克則 | S51  | 〃      | 坂 峰太郎 | H4   |
| 〃    | 山岸登美子 | S55  | 〃      | 小山 康之 | H6   |
| 〃    | 永井 正美 | S50  | 〃      | 柳原 直人 | H8   |
| 会計   | 竹内 登  | S50  | 監事・事務局 | 加藤先生  |      |
| 会計監査 | 荒井由紀夫 | S45  | 〃      | 鈴木先生  |      |
| 〃    | 木下 朋美 | S61  | 顧問     | 松村 龍二 | S31  |
| 常任理事 | 中山 弘之 | S51  | 〃      | 山岸 正裕 | S39  |
| 〃    | 大道真知子 | S51  | 〃      | 小泉信太郎 | S39  |
| 〃    | 川嶋 正巳 | S60  | 〃      | 笹岡 俊男 |      |
| 〃    | 森石 義浩 | H元   |        |       |      |



一旦入学した大学を中退して医学部に入り直しましたが、今、振り返ると、高校時代に急逝した親友が医師を目指していたことが私の決断に少なからず影響を与えていたように思います。医学部での6年間はアツと言う間に過ぎ、卒業が迫り専攻する診療科に迷い、頭を抱えて

らが得か？どちらが楽か？と頭を悩ませていた私は、彼女の言葉に愕然としました。だからと言つて急に聖人君子になれるわけではないですが、少なくとも損得ではなく自分の好きなことをやろうと決め、小児科医の道を選びました。その年は日本に国境なき医師団の事務局が開設された

動で100人の赤ちゃんを看取りました。同僚は200人を救ったと言つてくれましたが、帰国してもしばらくなはPTSD（心的外傷後ストレス障害）のような状況に陥りました。

それからの10年余りの期間に、エボラ出血熱が流行するシエラレオネや紛争に明け暮れるアフガニスタン、

命が多いことは私たちが一番知っています。それでも、医療を受けられずに死んでいく人々が溢れるこの世界を受け入れられない、痛み、悲しみ、怒りという名のニーズに応えたい、と巨大な石に向かい合う人たちの集まりが国境なき医師団です。

**雪に鍛えられた  
想像力で世界に挑戦？！**



昭和59年卒  
加藤寛幸

1965年生まれ、50歳  
1984年 勝山高校卒業  
2015年～国境なき医師団日本会長

昭和  
加  
196  
198  
201

世界は良くなっているか?と聞かれれば、残念ながら答えはノーです。私たちの活動は、「巨大な石を丘の上に押し上げようとするように、不可能かつ無意味だ」と言われることがあります。救える命以上に救えない

いた私に、お世話になつていて教会で長老をしていた女性がアドバイスをくれました。

「損をすると思う方を選びなさい、一番弱い人たちのために働きなさい」と。

この一言がその後の私の人生を左

# 平成28年度 大同窓会

平成28年8月13日(土)



実行委員長  
比良野 進  
(平成元年卒)



勝山市民交流センターにおいて、第十八回福井県立勝山高等学校大同窓会を開催することができました。

勝山市長をはじめとする来賓の方々に多数ご臨席いただきまして、厚くお礼申し上げます。

また、参加していただきました。卒業生の皆様、誠にありがとうございました。

さて当日の懇親会です

続いて今年は勝山高校出身の太神楽師「春本小助」さんをお招きし、太神楽を鑑賞しました。

目の前で繰り広げられるスリリングな曲芸の数々には、ただただ驚くばかりでした。ひと時を過ごすことができ、楽しい

感動をありがとうございました！

演奏は力感溢れる中にも緊張感たどよる素晴らしいもので、何より高校生の真剣な演奏に感激し、この演奏を聞くことができただけでも、同窓会に参加した甲斐があつたと思えるものでした。

勝高日本文化部の皆さん、最高でした！

が、オープニングを飾ったのは、勝山高校日本文化部による和太鼓演奏でした。日本文化部の皆さんは、第七回全国高校生太鼓甲子園で最優秀賞を受賞した直後と言うこともあり、注目の人気となりました。

今年はリオ・デ・ジャネイロオリンピック開催の年、勝山高校出身の「山口 茜」選手が躍動した年でもありました。

このように勝山高校出身の若い力が全国、全世界でも注目されたメモリアルイヤーに実行委員長の責を担当していただき感謝いたします。

個人的には高校入学から三十年経ったこの年に、多くの同級生と再会できたことが一番の思い出となりました。出会ってから三十年、共に過ごした時間は三年しかありませんが、話してしまえば高校時代と何ら変わりなく話ができる（おそらく言葉遣いも当時と同じだったと思われます）笑いあえる仲間との再会は、楽しいの一言に尽きます。話の内容は思い出話と近況報告を中心でした

すことができました。初めて太神樂を生で鑑賞するという、貴重な経験をありがとうございました。

その他、ギターの弾き語り等のアトラクションもあり、充実した同窓会になつたのではないかと思っています。

でも学年差の壁を越えて開催される大同窓会は他の高校では聞いたことが無く、勝山高校独自の素晴らしいものだと思います。同窓会役員の方々、幹事学年として実行委員になる方々には、色々とご尽力いただくなっていますが、是非ともこれからも継続して実施していただきたいと思います。

